

氏名 羽原利幸
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博甲第 4609 号
学位授与の日付 平成24年 6月30日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Germinal center B-cell-like versus non-germinal center B-cell-like as important prognostic factors for localized nodal DLBCL
(限局期節性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫において GCB表現型の検索は重要な予後予測因子となる)

論文審査委員 教授 谷本 光音 教授 岩月 啓氏 教授 四方 賢一

学位論文内容の要旨

本研究では、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(Diffuse large B-cell Lymphoma, DLBCL)の中でも、過去にほとんど報告のみられない限局期節性DLBCL39例を用いて臨床病理学的検討を行った。症例は、男性23例、女性16例(平均65歳)であった。Hansのアルゴリズムでは、germinal center B-cell-like (GCB) type群が non-GCB type群よりも有意に良好な無増悪生存(PFS)を示した。腫瘍の初発部位により頸部群と非頸部群の2群に分けてみると、頸部群が非頸部群よりも有意に良好なPFS、全生存(OS)を示した。Coxハザード解析では、PFSはHansのアルゴリズムによるGCBの表現型と初発部位に有意差を認め、OSは初発部位に有意差を認めた。以上より、これらの因子は、限局期節性DLBCLの予後を予測する重要な因子になることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究では、限局期節性びまん性大細胞性B細胞リンパ腫(DLBCL)に対して、免疫組織化学的診断結果から臨床病理学的検討を行うことで患者の予後予測に最も有用な方法を見出すことを目的に後方視的研究を行った。Hansらの方法を用いると Germinal center B-cell-like(GCB) type群が non-GCB type群よりも最も有意に良好な無増悪生存(PFS)を示し、腫瘍の初発部位(頸部 vs 非頸部)では頸部群が有意に良好なPFS、全生存(OS)を示した。Coxハザード解析では、HansのアルゴリズムによるGCBの表現型と初発部位に有意差を認め、OSは初発部位で有意であった。これらの結果は、GCB表現型の有無と初発部位(頸部)が限局期節性DLBCLに対する重要な予後予測因子になることを示した新たな知見である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。